

第 30 回 「家族理解」勉強会のお知らせ

対人援助の第一歩は「家族をまるごと理解すること。その理由は、それが最大の援助であるから。そしてそれは誰にでも取り組めることである」(団士郎先生より)是非ご一緒に「家族理解」を学んでみませんか？

対人援助に関わっている方ならどなたでもご参加できます。

日 時 令和 2 年 3 月 11 日 (水) 18:30~20:30

場 所 山形市総合福祉センター 3F 会議研修室 4 (一番奥の研修室です)

内 容 情報交換 シェノグラム面接 事例検討 *FAXにて申し込みをお願いします

佐藤千鶴(地域包括支援センター ふれあい 内) 行 *2 回目以降の方は名前のみで OK

FAX 023-628-3984

参加者氏名	
所 属・職 種	
住 所	
連 絡 先	TEL FAX
事例提供希望	有り (提供希望の方は○をつけて下さい)

前回(第29回)の様子【参加者】 13名(新規7名)

ケアマネ7名 OT1名 医療相談員1名 福祉事業団 1名 障がい関係 1名 包括支援センター2名

【情報交換】45分

今、自分が抱えているケースのことやこの勉強会に期待すること等情報交換。ターミナル、認知症、精神など障害を抱えた方の支援。 本人支援と家族支援のはざままで悩むこと。病院との連携の問題など、多くの話題がありました。あるケアマネさんが、「ケースはそれほど悩まない。家族が決めるし、それをサポートするだけだから・・・」といました。これって究極の対人援助かも。日本カウンセリング協会の杉溪理事長から「答えはね、いつも本人や家族がもっているんですよ!」と学んだことを思い出しました。その問題に向き合うのは当事者です。私たちは、当事者が頑張ろうとする力を引き出し、自分で判断することをサポートする。そして実行し、うまくいかなければまた同じようにサポートを繰り返すだけ。よりそいながら専門的なことはアドバイスすればいい。当事者は成功も失敗も引き受けながら強くなっていく。それが究極の自立支援なのだと、改めて初心に戻してもらえた一言でした。

【シェノグラム面接】 30分 13分×2名 2分 振り返り

【事例検討】30分

今回は70歳代の高齢の夫婦と40歳代の長男、次男家族というどこにでもある家族のケース

妻が介護状態になり相談が来たケースです。登場人物と、年齢だけから、家族の物語をイメージする訓練をします。家族の事情は様々です。我々は、普段経験しているケースからイメージを膨らませるしかないなので、他の様々な意見を聴いて器を広げることが目的のワークです。様々な事情にどんなやり方をして今があるのか。そのやり方でこれからも大丈夫なのか見立て、もしシステムに問題がある時は専門的な介入の時に、どこを強化するかを視野に入れた提案ができれば、家族は強くなり、たいいていのことは自分たちで動けるようになります。今回も今後、高齢の両親の介護が予測され、長男、次男のサブシステム強化がポイントのケースでした。

*対人援助のベースである家族理解と、家族システムの見立て、そうした上で専門的な介入をしていくと、家族はこれからもおこる様々な問題に自分たちの力で立ち向かえるようになります。

次回 第30回 「家族理解」勉強会 都合のつく方、是非ご参加ください。

佐藤